

次期学習指導要領 1枚まとめ｜中学校

社会 中学校

覚える社会から、問いと確かな情報で探究する社会へ

10秒でいうと

3分野をつなぐ分野横断の単元A・Bを設け、Cをまとめ単元に位置付け直す。地域調査は単元Bで

中学校の社会は、地理・歴史・公民をつなぐ「分野横断」の単元を設ける方向です。単元A「社会へのまなざし」、B「私たちと社会」、C「よりよい社会を目指して」（いずれも仮称）です。地域調査は、主に単元Bでまとめて行う方向です。日本の諸地域の数を減らすなど、内容をしぼる例も示されています。調べる技能に情報の確かさを確かめる力を加え、AIに頼った成果物が通用しない評価の工夫も求められています。

1 分野横断の単元A・B・C

Aは、小学校の学びをふまえて中学校社会への動機付けをする単元です。Bは、地理と歴史の学びをふまえて公民へつなぐ単元です。Cは、課題を探究して社会のまとめとする単元に位置付け直します。どれも仮称で、教科書での扱いは今後検討とされています。 P151

授業では 入学直後に、小学校で学んだ地図や年表を使って「中学校の社会で何を学ぶか」を見通す授業。そんな導入が単元Aの方向に沿う例です。

2 地域調査は単元Bで地理・歴史の両面から

中学校の地域調査は、小学校に比べて実施率が低いとされています。そこで、地域を題材とした学習を単元B「私たちと社会」（仮称）に位置付ける方向です。地理と歴史の両面から扱います。実施時期や方法は柔軟にできる方向です。 P153 P160

授業では 学校の周りの土地利用と、その土地の昔の様子を両方調べ、地域の課題を考える。そんな地域調査が考えられます。

3 内容をしぼる具体例

地理の「日本の諸地域」は、考察の仕方が重なる2つの地域を関連させ、扱う地域の数を減らす方向です。歴史は、政治・文化・外交・社会を一体的に扱い、時代の特色をつかむよう整理します。公民の情報化の学習は、新しい「情報・技術科」（仮称）と役割を分けるとされています。 P153

授業では 「産業」の視点で2つの地方を続けて比べ、共通点と違いを考える。そうした組み合わせが、この方向の一例です。

4 AIに頼った成果物が通用しない評価

検索結果のAIの要約をそのまま写す実態が課題とされています。最終的な評価で、自分で考えていない成果物が通用しない工夫が急がれるとしています。例として、口頭試問（口頭での質問）を取り入れることなどがあげられています。 P146 P159

授業では レポート提出後に、根拠にした資料と自分の考えを1分で説明してもらう。そんな確認の場面を入れる工夫が考えられます。

ほかにも変わること（中学校）

- 中学校社会に「分野横断」の単元A・B・Cを位置付ける案 P151
- 中学校の地域調査は単元B「私たちと社会（仮称）」でまとめて行う方向 P153 P160
- 学習内容をしぼり込む（具体例が示された） P153 P154
- 他の新しい教科・領域と役割を分ける P153
- 「調べまとめる技能」に情報の正しさを確かめる力を加える P148 P159
- AIに頼った成果物が通用しない評価を工夫する P146 P159
- 主権者教育を「深める」「広げる」 P157 P158
- 社会の変化をふまえて扱う内容を充実する P156

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/
｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。
ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。